

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
設立から1年、管理者をはじめ職員が認知症についてよく理解してケアサービスに努めている。2ユニット方式で、一人は経験豊かな介護福祉士さん、もう一人は認知症ケアに情熱を持って取り組んでいる若い看護師さんで、設立時から、協力しながら取り組んでいる様子がよく分かる。「更に良くして行こう」と意欲的でありながら、謙虚さも持った管理者である。「入居時より元気になった」「オムツがとれた」などの家族のコメントがあり、きめ細やかなケアサービスの効果が現われている。市街地の商業地区にあり、自然とのふれあいや外出など不自由な面もあるが、入居者の生活拡充・サービスの質の向上のため努力して欲しい。	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I	認知症の人が地域であたりまえに暮らすことの大切さ、グループホームの運営理念や役割について、地域の理解を得るためにホーム自体が町内会に加入することも常日頃からの啓発・広報になるのではないだろうか。
II	地域の中で自宅に代わる住み家としての実感をもってもらえる、外出から戻ったときに安堵感を味わえるような、親しみやすい玄関まわりの配慮が欲しい。
III	ケアプランを活かしてゆこうとする取り組みは感じられるが、職員の言葉かけや態度の質が重要であることを認識し、「ゆっくり」「ゆったり」を徹底したい。金銭管理の支援については、ちょっとした買い物を楽しめる人も少なくないので、外出する機会を増やすなどして、日常的にお金に触れ、使えるよう支援したい。包丁、洗剤の保管場所に安全対策のため夜間のみカギをかけるほうが望ましい。
IV	市町村は、市民福祉を推進する最前線の立場として、グループホームの事業の推進にとって重要な存在である。今後は、地域密着型サービスとしても、協力関係を築いていくことが欠かせない。市町村側と積極的に連絡取ったり、ホームの実情や取り組みを折に触れて伝え、相談の機会が求められる。

分野・領域	項目数	「できている」項目数	
		外部評価	
I 運営理念			
①	運営理念	4項目	3
II 生活空間づくり			
②	家庭的な生活環境づくり	4項目	3
③	心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	5
III ケアサービス			
④	ケアマネジメント	7項目	7
⑤	介護の基本の実行	8項目	7
⑥	日常生活行為の支援	10項目	9
⑦	生活支援	2項目	1
⑧	医療・健康支援	9項目	7
⑨	地域生活	1項目	0
⑩	家族との交流支援	1項目	1
IV 運営体制			
⑪	内部の運営体制	10項目	9
⑫	情報・相談・苦情	2項目	2
⑬	ホームと家族との交流	3項目	3
⑭	ホームと地域との交流	4項目	3